

隠岐圏域プロジェクト全体評価及び成果指標の達成状況(平成26年度)

NO	プロジェクト	全体評価(総括・検証)	成果指標と達成率			
			項目名	H26目標	H26実績	達成率
共地-3	隠岐産品のブランド力強化に向けた6次産業化の推進プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化は、関係機関との協議を重ね、推進方向の合意を得ながら、取組み業者への情報提供を細やかに行ったことから、各事業者が国や県事業を活用しながら取り組みが始まった。 ・各種イベントにも積極的に参加し、隠岐商品について認知度の向上が図られつつある。 ・また、一次産業と観光が連携した商品づくりも順調に進んでいる。 	隠岐スモールビジネス協議会員の取り引き先数1社あたり(件)	60	77	128%
			6次産業化に取り組む事業者数(件)	2	5	250%
			島根県物産観光館で定番化した隠岐産商品数(件)	65	49	75%
隠岐-1	隠岐の水田農業担い手育成プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・隠岐の島町で3事例目となる、集落営農設立志向集落が現れ組織化支援を行っているが、米価下落による採算性の不安が払拭できず集落内の合意形成ができなかった。 ・「島の香り 隠岐藻塩米」は、首都圏と継続的に取引を続けるため、新たな品質区分「世界ジオパーク米」が設けられ、首都圏向けに400袋出荷し試験販売を行った。 ・島後のWCSは、作期分散のため早生品種を導入。生育・収量とも概ね良好であった。 ・島前では、コシヒカリでWCSに取り組んだ。 	集落営農法人数(組織)	4	3	75%
			こだわり米のJA集荷量(t)	160	131	82%
			WCS用稲栽培面積(ha)	26	25	96%
			白小豆のJA集荷量(t)	7	4	57%
			新規作目の定着(品目)	試験栽培	2	100%
隠岐-2	隠岐牛産地拡大プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・「離島和牛振興サミット隠岐大会」が開催され、離島における和牛振興の課題について、検討。課題の一部は、飼料の運賃助成や死亡牛の海上輸送費助成として反映されつつある。 ・第11回全共の出品対策として、受精卵移植の取組を実施した。離島であるため、新鮮卵で移植する等、関係機関で連携を図りながら課題を克服した。 ・繁殖雌牛の導入・保留を促進した結果、繁殖雌牛の世代交代が図れた。 ・隠岐地区の飼料基盤の中心である公共牧野の新規整備計画の策定や機能向上に向けた取り組みを実施した。 ・島前地区においても、稲WCSの作付面積が拡大傾向にある。また、新たな利用システムについても、検討した。 ・「隠岐牛」のブランド化の取り組みとして、「隠岐潮風ファーム」が美味しまね認証を取得した。 	肥育牛の出荷頭数(頭)	144	162	113%
			子牛出荷頭数(頭)	1,150	1,215	106%
			脂肪交雑育種価	1.10	1.06	96%
			飼料米・稲WCS利用農家戸数(戸)	7	15	214%
隠岐-3	隠岐の地産地消拡大プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物等の販売額については各町とも販売額が増加しており、目標を達成した。 ・魅力ある新規品目の導入については隠岐の島町で4品目、海士町で3品目が導入された。 ・集荷・流通システムの構築のうち新規直売所(JAグリーン)への供給体制整備については、随時巡回指導を行いながら生産・販売状況の把握に努めている。また、秋の推奨品目を定め講習会で生産拡大を図った。 ・学校給食福祉施設等への供給拡大について、学校給食への供給は島前ではほぼ計画どおり行われている。島後では、品種統一や作付情報の共有化等、仕組みを再構築しながら取組を始めた。 ・福祉施設等への食材供給については、4施設増の計8施設(隠岐の島町3施設、海士町3施設、西ノ島町2施設)への供給が行われている。 	地産地消拠点販売額(万円)	7,000	7,714 (内訳) 隠岐の島 2672 西ノ島1168 海士3874	110%
			新規品目数(加工品含む、/年)	5	7 (内訳) 隠岐の島 4 海士 3	140%
			学校給食・福祉施設等への食材提供箇所数(箇所)	9	8	89%